



大学院薬学研究院 石橋正己教授の最終講義が行われました

2023年3月をもって退職される大学院薬学研究院 石橋正己教授の最終講義が、2月10日(金)に薬学部創立120周年記念講堂にて行われました。

石橋教授は、東京大学大学院博士課程を修了し、北海道大学薬学部助教授等を経て、1997年に千葉大学薬学部教授(活性構造化学研究室)に就任、2018年4月から2020年3月まで、薬学研究院長・薬学部長をお務めになられました。これまで四半世紀以上に渡り、天然物化学・生物活性天然物のスクリーニングの分野で多くの研究業績を発表し、本学の教育・研究に貢献されました。

最終講義は、森部薬学研究院長の冒頭あいさつで「笑顔の中にお人柄がにじみ出ている先生」とご紹介のあと、演題『ものとりとして：天然物に学ぶ』についてお話しされ、学外の方や本学の教職員・学生など約145名が熱心に聴講しました。

講義終了後には、感謝の気持ちを込めて博士課程の大学院生より謝辞があり、学生に寄り添い教鞭をとられてきた石橋教授の姿が伝えられました。また、学部生より花束が手渡され、森部薬学研究院長からは記念品が贈られました。

石橋教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



最終講義の様子



最終講義の様子



研究室学生より花束贈呈



森部薬学研究院長より記念品贈呈